

品川区いじめ根絶協議会（第１回）

議事録要旨

1 日時

令和３年７月１日（木）午前１０時から午前１１時３０分まで

2 会場

第一日野小学校 パソコン室

3 内容

- (１) 品川区教育委員会教育長挨拶
- (２) 委員紹介
- (３) 報告「品川区いじめ防止対策の取組」「いじめに関する調査結果概要」
- (４) 協議 テーマ「地域全体でできるいじめの未然防止、早期発見、いじめを生まない環境づくりについて」
- (５) 品川区教育委員会教育次長挨拶

4 出席者

委員一覧の通り

5 発言要旨

協議 テーマ「地域全体でできるいじめの未然防止、早期発見、いじめを生まない環境づくりについて」

○ 現状

- ・昨年度のいじめの認知件数の減少については、新型コロナウイルスによる休校の影響も鑑みる必要がある。（教育委員会指導主事）
- ・今年度より全児童・生徒に配布したタブレットにＳＯＳフォルダ（「アイシグナル」「チャイルドライン」）を導入し、タブレットからいじめ等の相談ができるようになった。（教育委員会指導主事）
- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、子どもと関わる行事等が減ってしまった。そこで、区内公園で子どもの見守りを行った。（グループ２）
- ・以前よりも民生委員の役割の認知が広まり、学校や子どもを見守ることのできる「地域のおばちゃん」として、学校と情報共有をしやすくなった。（グループ３）
- ・当区は他区と比べて非行少年の件数が少ない。地域と学校がうまく連携できていることが理由の一つとして考えられる。（グループ３）

○ 今後に向けて

- ・幅広く相談に対応するため、タブレットのような IT ツールと目安箱のようなアナログなツ

ールの両方を引き続き活用し、子どもの SOS をキャッチしていく必要がある。(グループ 1)

- ・いじめの相談ツールだけでなく、カウンセラー・養護教諭など、子どもが日常場面で悩みを話せるキーパーソンとなれる人や、SOS をキャッチした人が情報共有を行えるネットワークを地域と学校とで作る必要がある。(グループ 1)
- ・子どもの SOS や気持ちを受け止める幅広いツールが必要である。いじめ調査だけでなく、子どもが気持ちを受け止めてもらえた、分かってもらえたと感じられることが大切である。(グループ 2)
- ・「いじめとは何か」ということを子どもだけでなく保護者にも共有し、いじめ防止啓発を行う必要がある。(グループ 3)
- ・いじめ相談窓口で相談が入った時に、相談内容に対して適切な対応をし、子どもの心の安全やプライバシーが守られるよう、相談の受け止め方や、その後の対応の流れを整備する必要がある。(グループ 3)
- ・特別な支援を要する子どもへのいじめに関する教育や支援が難しい現実があるため、そのような子どもの保護者へのケアも必要である。(グループ 4)
- ・学校、地域の役割として、子どもが困った時に SOS を出せるように育てることも大切である。(グループ 4)

○ 委員長まとめ

- (1) 子どもが SOS を伝えられるツールを幅広く用意する。

ツールについて子どもに分かりやすく周知する必要がある。相談ツールを子どもに周知することは、いじめをなくそうとする動きがあることを子どもたちに知らせることにもなり、いじめの撲滅に対して効果的である。

- (2) SOS ツールの信用性を確保する

ちゃんと相談に乗ってくれるという実感を子どもが感じられるように、丁寧にラポールの形成を行い対応する。